eco生活事始め 見どころ解説 ―第５回　縄文時代④―

縄文時代の循環型社会から学ぶべきこと

図は、縄文時代の循環型社会をイメージしたもので、３R（Reuse・Recycle・Reduce）というゴミを減らす環境行動を媒介にして、縄文社会の中を資源が循環しているようすを表しています。

第２回の見どころ解説では、このうちの Reuse（繰り返し使う）と Recycle（転用する）を取り上げました。ヒビが入ってしまった土器を修理して使っている例（「**補修孔**」）や土器の破片を漁網のおもりに転用した「**土器片錘**」、下半部を打ち欠いた土器を炉囲いに用いた「**埋甕炉**」、珍しいものでは煮炊き用の土器を埋葬用に転用した「**甕被り葬**」など、縄文人の実にユニークで上手な資源の使い方を紹介してきました。

第３・４回の見どころ解説では、「いかにして持続可能な社会を目指そうとしたのか」というテーマに対して、「**ゴミ事情**」・「**食糧事情**」などの現代にも通じる**社会問題**という観点から、循環型社会の根幹をなす「**生産**（「**資源保護**」を含む）」と「**廃棄**」に関わる住環境や資源利用について考えてきました。

ここまでで明らかになったように、「大量の廃棄物」・「天然資源の枯渇」・「環境破壊」などといった社会問題や、これに対する「持続可能な社会」を目指そうとする試みは、現代社会に限った話ではなく、数千年も前の縄文時代にもその片鱗を見ることができます。もちろん、縄文時代と現代がまったく同じ状況にあるというわけではありませんが、その目指した先は昔も今も大きくは変わらないようです。

経済発展や技術革新により、現代に生きる我々の生活は物質的には豊かで便利なものとなりましたが、一方で、限りある資源を大量に消費し、大量に廃棄するという「消費型社会」の側面も未だに持ち合わせています。国や企業レベルでのエコ活動も推進されていますが、個人ではスケールが大きすぎて何をしたらいいかわからないという方も少なくないのかもしれません。そんな我々が縄文時代の eco 生活から学ぶべきは、「モノを大切にする」という単純明快なこと。持続可能な形で次の世代へ世界を繋いでいくために、いまの我々には何ができるでしょうか。縄文時代の循環型社会から学ぶべきことも多いのかもしれません。